



菅波 茂

スリランカ政府とタミールの虎との間に停戦が成立した。ノルウェー政府が仲介の役割を果たしてきた。復興への支援は日本政府が主役である。政府代表は「岡山発の国際貢献を考える会」の会長でもある明石康氏である。

1月中旬、明石氏から電話をいただいた。「昨日、スリランカから帰国した。日本がスリランカ和平に大きな役割を果たすことになる。AMDAが北部・東部・南部の3地域に巡回診療を実施して日本の存在をアピールしてほしい。岡山発の国際貢献の視点も加味してほしい」と。国際社会が

米国のイラク攻撃開始と、米連携が不可欠である。

国と北朝鮮との核の神経戦に目を見張り耳をそばだてている時に、日本イニシアチブのスリランカ和平が静かに進行している。この意義ある和平プロセスに参加させていただけるとは、AMDAにとって光栄の至りである。

4日、私と浜田祐子氏、石沢睦夫氏の3人がスリランカの首都であるコロンボに出発した。目的は4月までの3カ月間で、北部・東部・南部の3地域における初動体制の確立と北部地域での巡回診療の開始である。5月以降は東部と南部地区での巡回診療を実施する。日本政府、スリランカ政府、そしてタミールの虎との緊密な

スリランカ医療和平プロジェクト

巡回診療体制が確立すれば、日本人を主力としたAMDA多国籍医師団の活動である。60万〜80万人と言われている国内避難民のみならず、医療の恩恵にあずかれない人たちが対象である。呼吸器疾患、消化器疾患、皮膚疾患、眼科疾患、そして小外科疾患などが考えられる。治療効果の分かりやすい形成外科チームの派遣は注目されるはずである。

AMDAはこのプロジェクトを「スリランカ医療和平プロジェクト」と位置付けている。「医療和平」とは、AMDAが提唱したコンセプト。紛争当事者の双方に中立人道支援の立場で国際医療協力を行

い、紛争の緩衝を図り和平プロセスに寄与する試み。過去の例として、コソボ紛争で対立するアルバニア系・セルビア系双方への医療支援、アフガニスタンのワクチン停戦がある。今回はAMDAにとって第3番目の医療和平プロジェクトである。

「国民参加型国際貢献」とは、政府、地方自治体、企業、NGOそして国民の5者連携である。スリランカ医療和平プロジェクトは「岡山発の国際貢献」そして「国民参加型国際貢献」のモデルとして最適である。「救う命があればどこへでも行く」のスローガンのもとに全力を尽くしたいと思っている。ご支援をお願いしたい。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）